

AI エージェント比較分析レポート：Genspark、OpenAI Deep Research、Manus – ビジネス・研究用途と日本語対応を中心に Gemini Deep Research

I. エグゼクティブサマリー

本レポートは、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus という 3 つの先進的な AI エージェントについて、特にビジネスおよび研究用途における利用と日本語対応能力に焦点を当て、多角的な比較分析を提供するものです。分析は、検索精度、応答速度、対応分野、UI/UX、連携機能（API 等）、価格体系、そして日本語処理能力といった複数の評価基準に基づいています。

分析の結果、各エージェントは異なる特性と強みを持つことが明らかになりました。OpenAI Deep Research は、既存の ChatGPT プラットフォームに統合され、引用付きの詳細なレポート生成能力により、検証可能性を重視する深い調査タスクに強みを発揮します。しかし、現状では API が提供されておらず、利用回数制限も存在します。Genspark スーパーエージェントは、比較的手頃な価格設定と、動画生成を含む多様なモデルへのアクセスを提供する可能性があります。しかし、機能の詳細、性能指標、日本語サポートの質に関する公開情報が乏しく、評価には更なる検証が必要です。Manus は、中国発の次世代 AI エージェントとして注目を集め、エンドツーエンドのタスク自動化能力を持つと期待されていますが、アクセスが極めて限定的であり、その真価は未だ不透明です。

AI エージェント市場全体としては、単なる情報検索ツールから、自律的にタスクを計画・実行する「行動する AI」へと急速に進化しています¹。マルチモーダル対応、高度な推論能力、パーソナライゼーションが今後の主要な技術トレンドであり、複数のエージェントが連携して複雑なタスクを処理するマルチエージェントシステムの開発も進んでいます²。Google のような大手 IT 企業も Gemini モデルを基盤とした AI エージェントサービスを強化しており⁴、市場競争は激化しています。

日本国内のビジネスおよび研究機関においては、これらの AI エージェント導入により生産性向上やイノベーション加速が期待される一方、自社のユースケースに最適なツールの選定、日本語処理能力の慎重な評価、API 連携の可否、コスト対効果、データガバナンスといった課題への対応が不可欠です。本レポートは、これらの戦略的判断を下すための一助となることを目指します。

II. ビジネス・研究向け AI エージェントの概要

AI エージェントの定義と進化

近年、AI 技術は目覚ましい発展を遂げ、従来のチャットボットや検索エンジンを超える能力を持つ「AI エージェント」が登場しています。AI エージェントとは、単にユーザーの指示に応答するだけでなく、設定された目標を理解し、周囲の環境（デジタル環境を含む）を認識し、自律的に意思決定を行い、目標達成のために具体的なアクションを実行するシステムを指します²。これは、情報を処理・生成する「思考する AI」から、実際にタスクを遂行する「行動する AI」へのパラダイムシフトを示唆しています¹。

ビジネス・研究分野における重要性

ビジネスおよび研究の現場では、複雑な情報の収集・分析、詳細なレポート作成、定型業務の自動化、さらには新規事業のアイデア創出支援など、高度な知的作業が求められます。AI エージェントは、これらのタスクを自動化・効率化することで、人間の専門家がより創造的で戦略的な業務に集中できる環境を提供します²。例えば、市場調査レポートの自動生成、膨大な学術論文のレビューと要約、データ分析に基づく傾向予測などが可能になり、生産性の向上、コスト削減、そしてイノベーションの加速に貢献することが期待されています¹²。

日本市場におけるニーズ

特に日本市場においては、AI エージェントが日本語のニュアンスや文脈を正確に理解し、自然で高品質な日本語で応答・レポート生成を行う能力が極めて重要です。ビジネス文書の作成、国内市場向けリサーチ、学術研究など、多くの場面で高度な日本語処理能力が求められるため、本レポートでは各エージェントの日本語対応レベルを重点的に評価します。

本レポートの構成と評価方法

本レポートでは、ユーザーからの要求に基づき、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus の3つのAI エージェントを対象とします。評価基準として、機能、検索・リサーチ精度、応答速度、対応分野、UI/UX、連携機能（API）、価格体系、そして日本語対応能力（精度、自然さ）を設定しました。これらの基準に基づき各エージェントを分析・比較し、それぞれの強み・弱み、最適なユースケースを明らかにします。さらに、AI エージェント市場全体の動向、将来の技術進化、Googleをはじめとする主要プレイヤーの動向についても考察し、総合的な視点を提供します。分析は、提供された情報源に基づき行われます。

III. AI エージェント プロファイル : Genspark スーパーエージェン

ト

概要とコア機能

Genspark スーパーエージェントは、AI を活用したサービスの一つとして位置づけられ、**Perplexity AI** や **Felo AI** といった他の AI ツールと比較されることがあります¹³。提供されている情報からは、「スーパーエージェント」としての具体的な独自機能や詳細な仕様は明確ではありませんが、基本的なチャット機能を超えた高度な AI 機能の提供を目指していると考えられます。情報収集、分析、コンテンツ生成といったタスクを支援する目的で設計されている可能性が高いです。

パフォーマンス指標（検索精度、応答速度）

現時点で利用可能な情報源（¹³など）は、主に価格設定やプラン内容に焦点を当てており、**Genspark** スーパーエージェントの検索精度や応答速度に関する具体的なベンチマークデータや客観的な評価は含まれていません。これらの性能指標は、AI エージェントの有効性を判断する上で極めて重要であるため、外部の独立したレビューや、可能であれば直接的な試用による検証が必要です。

対応分野とユースケース適合性（ビジネス/研究）

Genspark が **Perplexity AI**（研究用途で頻用される）や **Felo AI** と比較されている点¹³から、ビジネスや研究に関連する情報収集、データ分析、レポート作成支援といったユースケースを想定していると推測されます。また、有料プランにおいて動画生成機能へのアクセスが含まれていること¹⁴は、テキスト情報処理だけでなく、マルチモーダルな機能や、マーケティング、クリエイティブ分野への応用も視野に入れている可能性を示唆しています。

UI/UX 評価

Genspark スーパーエージェントのユーザーインターフェース（UI）やユーザーエクスペリエンス（UX）に関する具体的な情報は、提供された資料の中には見当たりません。直感的な操作性、情報提示の分かりやすさ、カスタマイズ性などは、実際の利用感到に大きく影響するため、評価には実機での確認が不可欠です。

連携機能（API 利用可能性）

API（Application Programming Interface）の提供状況は、外部システムとの連携や業務プロセスへの組み込みを検討する上で重要な要素です。有料プランで「全ての AI エージェント」や「全てのモデル」へのアクセスが可能と言及されている点¹⁴は、API アクセスや何らかの連携機能が含まれている可能性を示唆しますが、開発者向け API と

して公式に提供されているかは不明確です。この点は、ビジネス利用における自動化や拡張性を考慮する上で、さらなる確認が必要です。

価格体系

Genspark は無料プランを提供していますが、機能に制限がある可能性があります¹³。有料プランについては、月額 3,688 円で月間 10,000 クレジットが付与され、優先アクセス権や全モデルへのアクセス（動画生成含む）が可能になるという情報があります¹⁴。この価格（約 24-25 米ドル相当）は、ChatGPT Plus（月額 20 ドル¹⁶）や Perplexity Pro（月額 20 ドル¹⁷）といった他の AI ツールと同等の価格帯にあります。一方で、Genspark の有料プラン価格が「未公開」とする情報も存在し¹³、情報に矛盾が見られます。月額約 3,000 円（約 20 ドル）という情報源もあります¹⁵。

この価格情報の不一致は、複数のプランが存在する可能性、地域による価格差、あるいは情報の鮮度の問題を示唆しているかもしれません¹³。特に、月額 3,688 円のプランに「1 万クレジット」が付与されるという点は¹⁴、サブスクリプション内であっても利用量に基づく制限が存在することを示しています。クレジットシステムは、特定の高度な機能や大量の処理に対して消費されることが一般的であり、研究やビジネス分析のような集中的なタスクにおいては、想定以上のコストが発生したり、利用が制限されたりする可能性があり、コストの予測可能性に影響を与えかねません。より具体的な情報を持つ¹⁴が、特定の利用可能なプランを指している可能性が高いと考えられます。

また、「全てのモデルへのアクセス」や「動画生成」機能の提供¹⁴は、Genspark が単一の独自モデルに依存するのではなく、複数の基盤 AI モデルを組み合わせたプラットフォームとして機能している可能性を示唆しています。このアプローチは、多様な機能を提供する上で柔軟性をもたらしますが、利用するモデルによって性能や応答品質が変動する可能性や、操作が複雑になる可能性も考慮する必要があります。

日本語対応評価

Genspark スーパーエージェントの日本語処理能力（精度、自然さ、文脈理解）に関する具体的な評価や情報は、提供された資料からは得られませんでした。日本市場でのビジネス・研究用途においては、日本語の微妙なニュアンスを正確に扱えるかが成功の鍵となるため、この点は最も重要な検証項目の一つです。実際の利用を通じて、その品質を評価する必要があります。

IV. AI エージェント プロファイル : OpenAI Deep Research

概要とコア機能

OpenAI Deep Research は、広く利用されている ChatGPT に搭載された新しい「エージェント」機能であり、複雑な調査タスクの自動化を目的としています⁶。ユーザーが指定したトピックについて、多段階にわたる情報収集、分析、統合を行い、最終的に引用情報を明記した詳細なレポートを生成します⁶。人間が数時間を要するような調査を数十分で完了させる能力を持つとされ、専門家レベルのタスクにおいても高い性能を発揮することを目指しています⁹。さらに、Python コードを実行して計算やグラフ作成を行う機能も備えています⁶。

パフォーマンス指標（検索精度、応答速度）

精度: Deep Research は、即時応答性よりも調査の深さと質を重視して設計されています。そのため、処理時間が長くなるほど、より詳細で精度の高い結果が得られる傾向があります（「推論時間が増えるほどに性能の向上」⁹）。比較的単純なタスクでは、より高い精度が期待できます⁹。その性能は、GAIA や Humanity's Last Exam といった複雑な推論や問題解決能力を測るベンチマークを用いて評価されており⁹、高度な分析能力を裏付けようとしています。生成されるレポートには出典元が明記されるため⁶、情報の検証可能性が高い点は大きな利点です。ただし、他の大規模言語モデルと同様に、ハルシネーション（事実に基づかない情報の生成）のリスクは依然として存在し、報告例もあります⁹。

応答速度: 通常の ChatGPT のような対話型の即時応答を目的としたツールではありません。複雑な調査プロセスを実行するため、レポートが生成されるまでには数分から、トピックの複雑さによってはそれ以上の時間を要します⁶。これは、迅速な回答を求めるユースケースには不向きですが、徹底的な調査が必要な場合には許容されるトレードオフと言えます。

対応分野とユースケース適合性（ビジネス/研究）

Deep Research は、その名の通り、複雑なリサーチ、詳細な分析、網羅的なレポート作成といったタスクに特化しています⁶。多様な情報源からデータを収集・統合する必要がある場合に有効です⁹。具体的な応用例としては、市場動向分析、競合調査、科学技術文献のレビュー、金融情報の分析、法規制調査などが考えられます。STEM（科学、技術、工学、数学）分野での利用が想定されていますが、自動車や家具の購入といった、より一般的な消費者向けの複雑な意思決定支援にも活用できるポテンシャルがあります¹⁰。

UI/UX 評価

Deep Research は既存の ChatGPT インターフェース内に統合されており、ユーザー

はテキストプロンプトを通じて調査を依頼します。エージェントは自律的に調査を実行し、完了後にレポートを提示します⁶。レポート生成後も対話形式で追加質問を行ったり、内容を深掘りしたりすることが可能です⁶。既に ChatGPT を利用しているユーザーにとっては、学習コストが低く、直感的に利用開始できる点がメリットです。

連携機能 (API 利用可能性)

公式 API の不在: 2025 年初頭時点において、OpenAI は Deep Research 機能専用の公式 API を提供していません⁴。これは、Deep Research の機能を既存の業務システムや自動化されたワークフローに直接組み込む上で、大きな制約となります。

代替手段と需要: API が提供されていない現状に対して、LangChain が提供するオープンソースの「OpenDeepResearch」のような、同様の機能を再現し API 化を目指す試みも存在します⁴。これは、カレンダー連携による会議前の情報収集自動化や、業務アプリケーションとの統合による効率化など⁴、プログラムによるアクセスへの強い需要が存在することを示唆しています。OpenAI は GPT-4o などの基盤モデルに対しては API 経由でのファインチューニング機能などを提供していますが¹⁸、これは Deep Research エージェント自体の API アクセスとは異なります。

API の欠如は、特に企業環境において、Deep Research の活用をユーザー主導のインタラクティブな調査に限定し、定常的な市場モニタリングや大規模データ分析といった自動化プロセスへの適用を困難にしています。この点は、導入を検討する上で重要な考慮事項となります。

価格体系

Deep Research は、ChatGPT の無料プランでは利用できません⁹。利用するには、ChatGPT Plus、Pro、Team、Enterprise といった有料プランへの加入が必要です⁶。

さらに、有料プラン内でも利用回数に制限が設けられています。例えば、月額 20 ドルの Plus プランでは月 10 回まで⁹、より上位のプラン (Team/Enterprise 等、²⁰ では「ChatGPT Pro」として月額約 34,000 円のプランが言及されている) では月 100 回までといった制限が報告されています⁹。上位プランにおける 1 回あたりの利用コストは約 340 円と試算されており²⁰、頻繁な利用には相応のコストが発生します。

これらの利用制限とコスト構造は、Deep Research が計算資源を大量に消費する高度な機能であることを示唆しており、OpenAI がそのコストを利用者に転嫁していると考えられます。結果として、利用は価値の高い特定の調査タスクに限定される可能性があります。頻繁な利用や大規模な調査を必要とする組織にとっては、コストが導入障壁となる

可能性があります。なお、基盤モデル（GPT-4o など）の API 利用料金¹⁸は、ChatGPT インターフェース内で Deep Research 機能を利用する際の制限とは別の体系です。

日本語対応評価

Deep Research の日本語処理能力は、その基盤となる OpenAI の大規模言語モデル（GPT-4o や専用の o1 モデルなど²⁰）の性能に依存します。これらのモデルは、一般的に高い多言語能力を持ち、日本語にも対応しています。

したがって、Deep Research によって生成される日本語レポートの品質（精度、自然さ、専門用語の適切な使用、文脈理解）は、基盤モデルの日本語能力を反映すると考えられます。GPT-4o などの最新モデルは日本語においても高い性能を示しますが、特に複雑な学術研究やビジネス分析における専門的な内容やニュアンスをどの程度正確に扱えるかについては、実際の利用を通じた検証が推奨されます。引用元の情報を正確に反映し、自然な日本語でレポートを構成する能力が、日本市場での実用性を左右します。

Deep Research が詳細なレポートと引用情報を提供する点⁶は、ビジネスや研究における情報の信頼性と検証可能性への要求に応える重要な特徴です。これは、従来の生成 AI におけるハルシネーションや出典不明といった課題に対処し、プロフェッショナルな現場での利用における信頼性を高めることを意図しています。また、OpenAI の発表後、Google が同様の機能（Gemini Deep Research）を迅速にリリースしたこと⁴は、自律型リサーチエージェントが AI 分野における主要な競争領域となりつつあることを示しており、今後、各社による機能強化や性能向上が急速に進むことが予想されます。

V. AI エージェント プロファイル : Manus

概要とコア機能

Manus は、中国発の AI エージェントであり、次世代の技術として大きな注目を集めています¹⁹。単なる情報検索や応答生成にとどまらず、ユーザーの指示に基づき、レポート作成、スプレッドシート生成、ウェブサイトとのインタラクションなどを含む「エンドツーエンド」のタスクを自律的に実行し、完結した成果物を提供することを目指しています²³。テキスト入力に加え、音声や画像など多様な形式の入力を処理できる可能性も示唆されています²³。その潜在的な能力から、既存の AI 技術を凌駕し、市場に変革をもたらす可能性を持つと期待されています¹⁹。

パフォーマンス指標（検索精度、応答速度）

Manus の具体的な検索精度や応答速度に関する客観的なベンチマークデータは、提供

された資料からは確認できませんでした。しかし、テスト版へのアクセス権が中国国内で高額（約 5 万元、日本円で約 100 万円以上）で取引されているとの報道²²は、その性能に対する期待の高さを物語っています。ただし、これはあくまで市場の期待感を示すものであり、実際の性能は未知数です。「エンドツーエンドのタスク実行」²³という特性上、タスクの複雑さによって処理時間は大きく変動する可能性があります。

対応分野とユースケース適合性（ビジネス/研究）

Manus は、「実務に踏み込んだ」使い勝手の良さを目指しているとされ²²、ビジネス用途での活用が強く意識されています。レポートやスプレッドシートを生成する能力²³は、ビジネス分析、市場調査、研究文書作成といった分野での適合性を示唆します。その自律的なタスク実行能力が真価を発揮すれば、単なる情報収集支援を超え、複雑な業務プロセス全体の自動化や、より高度な分析業務の支援が可能になるかもしれません。

UI/UX 評価

Manus のユーザーインターフェース (UI) やユーザーエクスペリエンス (UX) に関する具体的な情報は、現時点では公開されていません。

連携機能（API 利用可能性）

Manus の API 提供状況に関する情報も、提供された資料には含まれていませんでした。現在、テスト版へのアクセスが極めて限定的で高額で取引されている状況²²を考慮すると、一般向けの公開 API が提供されている可能性は低いと考えられます。将来的に API が提供されれば、その高度なタスク実行能力を様々なシステムに組み込むことが可能になり、大きなインパクトをもたらす可能性があります。

価格体系

Manus の正式な価格体系は不明です。Genspark と同様に¹³、公式な価格情報がまだ公開されていない可能性があります。

特筆すべきは、前述の通り、テスト版へのアクセス権が中国の非公式市場で約 5 万元（約 100 万円）以上という極めて高額で売買されているという点です²²。これは、Manus が持つとされる独自の自動化能力や生産性向上への期待が、既存のツールを大幅に上回っていると市場（特に中国国内）で認識されていることを示唆しています。この価格は、その希少性だけでなく、潜在的な価値の高さを反映していると考えられます。なお、²⁴で言及されている 18,000 円という価格の文脈は不明確であり、Manus 自体へのアクセス料金ではなく、関連情報や解説に対する価格である可能性が高いです。

日本語対応評価

Manus 自体の日本語処理能力に関する直接的な評価は存在しませんが、関連する情報から推測する手がかりはあります。中国で開発されている他の AI モデル、特に比較的小規模なパラメータ数（10 億、30 億など²⁵、あるいは 27 億²⁶）を持つモデルでも、高品質な日本語処理能力が実現されている例が報告されています²⁵。

もし **Manus** がこれらのモデルと同様のアプローチや技術基盤を採用している場合、日本語においても高い性能を発揮する可能性があります。特に、²⁵では「ちょっといいパソコン」で動作する規模のモデルで高い日本語処理能力が達成されていると言及されており、これは、大規模なクラウドインフラに依存せず、ローカル環境での利用も視野に入れている可能性を示唆します。ただし、これはあくまで間接的な情報であり、**Manus** の実際の日本語能力については、公式な発表や実機検証を待つ必要があります。モデルの出自が同じでも、性能は個別に大きく異なる可能性があるため、注意が必要です。

Manus が中国発であること¹⁹は、AI 開発における米国の優位性に挑戦する動きとして注目されます。これは、最先端の AI エージェント開発が世界的に多様化していることを示しており、地域ごとのデータポリシーや政府の支援などが、技術的なアプローチや市場の力学に影響を与える可能性があります。また、「エンドツーエンドのタスク」実行やスプレッドシート生成といった機能²³は、**Manus** が単なるリサーチツールではなく、デジタル環境と対話して具体的な作業を遂行する、より真の「AI エージェント」に近い存在であることを示唆しています。これは、インテリジェントな自動化という点で、従来の RPA (Robotic Process Automation) の領域に踏み込みつつ、より高度な判断能力を持つ可能性があります。

VI. AI エージェントの比較分析

以下に、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus の 3 つの AI エージェントについて、本レポートで調査した項目に基づき、比較分析をまとめます。特に、ビジネスおよび研究用途への適合性、日本語対応、価格、連携機能に焦点を当てます。

機能・性能比較マトリクス

項目	Genspark スーパーエージェント	OpenAI Deep Research	Manus
----	---------------------	----------------------	-------

コア機能	情報収集、分析、コンテンツ生成 (動画生成含む可能性 ¹⁴⁾)	複雑な調査、多段階分析、引用付きレポート生成 ⁶	エンドツーエンドのタスク実行、レポート・スプレッドシート生成 ²³
タスク自動化レベル	不明 (情報収集・生成が主か)	リサーチ・レポート作成の自動化	高度な自律的タスク実行 (潜在的に)
検索/リサーチ精度	不明 (データなし)	高い (特に長時間処理時)、引用による検証可能 ⁹	不明 (データなし、ただし期待は高い ²²⁾)
応答速度プロファイル	不明 (データなし)	低速 (詳細な調査のため) ⁶	不明 (タスクにより変動か)
対応分野	ビジネス、研究、コンテンツ生成 (潜在的)	ビジネス、研究 (特に深い調査)、STEM 分野 ¹⁰	ビジネス、研究 (実務・プロセス自動化に強みか) ²²
UI/UX (既知の側面)	不明	ChatGPT インターフェースに統合、対話による追加質問可能 ⁶	不明
連携機能 (API 状況)	不明 (「全モデルアクセス」が API を示唆する可能性あり ¹⁴⁾)	公式 API なし ⁴	不明 (現状では提供可能性低い)
価格モデル	無料プランあり。有料プランは月額 ¥3,688/1 万クレジット ¹⁴ or 約 ¥3000/\$20 ¹⁵ or 未公開 ¹³ (情報錯綜)	無料プラン不可。有料プラン (Plus/Pro/Team 等) で利用可能、回数制限あり ⁹	不明 (テストアクセスは高額 ²²⁾)

日本語対応 (報告/推測)	不明 (要検証)	良好 (基盤モデル依存、GPT-4o 等)、要検証 ²⁰	潜在的に高品質の可能性 ²⁵ 、要検証
主なユースケース	コスト重視の情報収集、多様な AI 機能試用 (性能次第)	詳細・検証可能なレポートが必要な深い調査、分析	複雑な業務プロセスの自動化、エンドツーエンドのタスク実行 (性能・アクセス次第)
主な強み	価格競争力 (潜在的)、多様な機能アクセス (潜在的)	調査の深さ、引用による信頼性、ChatGPT エコシステム	高度な自律性 (期待)、エンドツーエンド実行 (期待)、市場の期待感
主な弱み	情報不足 (機能、性能、API、日本語)、価格情報の不確実性	API 不在による連携制限、利用回数制限・コスト、応答速度	情報不足、アクセス困難、高額な (非公式) アクセス費用、中国発の懸念 (一部ユーザー)

注：本表は提供された情報に基づいて作成されており、「不明」または「データなし」と記載されている項目は、さらなる情報が必要です。

強みと弱みの分析

- **Genspark スーパーエージェント:**
 - **強み (潜在的) :** 他の AI ツールと比較して、価格競争力がある可能性があります (月額¥3,688 または約¥3000/\$20 という情報に基づく¹⁴)。また、単一の機能に特化せず、動画生成を含む複数の AI モデルや機能へのアクセスを提供するプラットフォームである可能性も示唆されています¹⁴。
 - **弱み:** 最大の弱点は、その具体的な機能、性能 (精度、速度)、API の有無、そして最も重要な日本語サポートの品質に関する信頼できる公開情報が著しく不足している点です¹³。価格情報にも矛盾が見られ¹³、月間クレジット制限¹⁴がヘビーユーザーの利用を制約する可能性もあります。
- **OpenAI Deep Research:**
 - **強み:** 複雑なトピックに対して多段階の調査を行い、出典を明記した詳細なレポートを生成する能力は、ビジネスや研究における信頼性の要求に応えます

6。世界中で広く利用されている ChatGPT プラットフォーム内に統合されているため、多くのユーザーにとってアクセスしやすい点も利点です⁹。強力な基盤モデル（GPT-4o など）を活用していることも強みです。

- **弱み:** 現状で公式 API が提供されていないため、他のシステムとの自動連携が困難です⁴。有料プランでも利用回数に制限があり、特に頻繁な利用にはコストがかさむ可能性があります⁹。詳細な調査を行う設計上、応答に時間がかかる点⁶、そしてハルシネーションのリスク⁹も考慮すべき弱みです。

- **Manus:**

- **強み（期待に基づく）:** 最も注目されるのは、エンドツーエンドのタスクを自律的に完遂する能力を持つ可能性です²³。これが実現されれば、既存の AI エージェントを凌駕する革新的なツールとなる可能性があります。市場での高い期待感²²や、関連技術における日本語サポートの質の高さを示唆する情報²⁵も、潜在的な強みと言えます。
- **弱み:** 現時点では情報が極めて限定的であり、その真の能力、性能、価格、API 提供状況などはほとんど不明です。アクセスが非常に困難であり、テストアクセスに法外な価格がついている状況²²は、一般利用の障壁となっています。また、中国発の技術であることから、一部の国際的な企業にとってはデータセキュリティやガバナンスに関する懸念が生じる可能性もあります。

最適なユースケースシナリオ

- **Genspark スーパーエージェント:** もし価格情報¹⁴が正確で、かつ性能と日本語サポートが十分であれば、コストを抑えつつ AI ツールを活用したい個人や小規模チーム、あるいは動画生成など特定の追加機能に関心がある場合に適している可能性があります。ただし、現状では情報が不足しているため、本格導入前のパイロット利用や、重要度の低いタスクでの試用が推奨されます。
- **OpenAI Deep Research:** 調査のスピードよりも網羅性、正確性、出典の明記が重視される用途に最適です。研究者、アナリスト、コンサルタント、戦略プランナーなどが、市場調査、競合分析、文献レビュー、技術動向調査といった、深く掘り下げた検証可能なレポートを必要とする場合に強力なツールとなります⁶。手動での操作や、既存ワークフローへの限定的な統合が許容できる場合に適しています。
- **Manus:** もし市場の期待通りの能力（特にエンドツーエンドのタスク自動化²³）を持つことが確認されれば、複雑なビジネスプロセスやワークフローの自動化を目指す先進的な企業にとって魅力的な選択肢となり得ます。高い導入コストや初期導入のリスクを許容でき、最先端の自動化技術を追求する組織、特に日本語サポートが強力であることが証明されれば²⁵、日本企業にとっても有力候補となる可能性があります。

これら3つのエージェントは、製品の成熟度と市場戦略において異なる段階にあります。OpenAI Deep Research は、巨大な既存ユーザーベースを持つプラットフォームへの機能拡張として提供されています⁹。Genspark は、競争の激しいAIアシスタント市場で独立した製品として競合しているように見えます¹³。Manus は、限定的なリリース段階にある、次世代技術の可能性を秘めた希少な存在です²²。これらの違いは、アクセスのしやすさ、統合の可能性、そしてターゲットとする顧客層に影響を与えます。

また、3つのエージェントすべてにおいて、性能（精度、速度）や日本語処理能力に関する標準化された客観的なベンチマークデータが不足している点は、公平な比較を困難にする大きな課題です。これは、AIエージェント評価手法の未成熟さを示しており、導入検討時には、定性的な情報や個別の検証に頼らざるを得ない状況を生んでいます。

特にビジネス利用において、APIの利用可能性は重要な差別化要因となります。

OpenAI Deep Research のAPI不在⁴は明確な制約ですが、Genspark¹⁴やManus（現状不明）が将来的にAPIを提供すれば、自動化されたエンタープライズワークフローへの組み込みやすさという点で優位に立つ可能性があります。特定のユースケースにおいては、APIアクセスが他の機能よりも優先される決定要因となることも考えられます。

VII. AI エージェント市場の動向と将来展望

現在の市場概況

- **急成長と投資拡大:** AI エージェント市場は急速な成長が見込まれており、IDC は2028年までに40億ドル以上の市場規模に達すると予測しています¹。世界中の企業がAIへの投資を計画しており、特に日本企業はその投資意欲が高い傾向にあります（約半数が2,500万ドル超の投資を予定²⁷）。
- **「行動するAI」へのシフト:** 市場のトレンドは、単に情報を生成する大規模言語モデル（LLM）から、自律的に目標を設定しタスクを実行するAIエージェントへと移行しています¹。AIエージェントは、将来的に「バーチャルな同僚」として機能することが期待されています¹¹。
- **導入初期段階と価値実証:** 高い期待が寄せられている一方で、AIエージェントの本格的な導入はまだ初期段階にあります。2025年は、企業がAIエージェントを実際に導入し、その価値を実感し始める重要な年になると考えられています¹。投資対効果（ROI）の実証がますます重視されるようになるでしょう²⁸。
- **主要プレイヤーと競争:** 市場はOpenAIやGoogleといった大手テック企業が主導していますが⁴、中国発のManusのような新たなプレイヤー¹⁹や、特定の分野に特化したスタートアップも登場し、競争は激化しています¹⁰。

企業が AI エージェントへの投資を加速させている背景には、単なる効率化ツールとしてではなく、ビジネスの中核機能を再構築し、新たな価値を創出するための戦略的資産と見なしていることがあります²⁷。この認識が、市場の急速な成長と変革への期待を後押ししています。

技術進化の方向性

- **高度な推論能力と自律性:** AI エージェントは、より複雑な目標を理解し、状況に応じて計画を立て、人間の介入を最小限に抑えながらマルチステップのタスクを実行する能力を高めていくでしょう³。過去の経験から学習し、パフォーマンスを継続的に改善する能力も向上します³³。
- **マルチモーダル対応:** テキストだけでなく、画像、音声、動画、センサーデータなど、複数の種類の情報を統合的に処理する能力が標準となります²。これにより、より多様なタスクへの対応や、現実世界との連携が強化されます。
- **パーソナライゼーションと特化:** 個々のユーザーの好みや行動履歴に合わせて最適化されたパーソナル AI エージェントが登場し⁷、医療²、金融¹⁰、顧客サービス²、営業³など、特定の業界や業務に特化したエージェントの開発が進みます。
- **マルチエージェントシステム:** 単一のエージェントでは解決困難な複雑な問題に対して、複数の専門エージェントが協調してタスクに取り組むシステムが発展します³。これらのエージェント群を効果的に管理・連携させるためのオーケストレーション技術が重要になります¹。
- **汎用人工知能 (AGI) への進展:** 人間に近い、あるいはそれを超える汎用的な知能を持つ AGI (Artificial General Intelligence) の研究が進展すれば、AI エージェントの能力は飛躍的に向上する可能性があります⁷。
- **ハードウェアとデータ基盤:** 高度な AI エージェントの性能を支えるためには、GPU などの強力な計算資源¹¹と、企業内外の膨大なデータを効率的に活用するための技術 (RAG: Retrieval-Augmented Generation、ナレッジグラフなど¹) が不可欠となります。

未参入企業 (Google 等) の動向と市場への影響

- **Google の積極的な参入:** Google は、AI エージェント分野において既に主要なプレイヤーです。高性能な Gemini モデルを基盤とし⁴、Google Cloud を通じてエンタープライズ向けの AI エージェントソリューションを提供しています⁵。OpenAI に対抗する形で「Gemini Deep Research」もリリースしています⁴。
- **Google 参入の影響:** Google のような巨大企業の本格参入は、技術革新の加速、価格競争の促進、そして市場全体の活性化につながります。Google が持つ検索技術、広範なデータ、強力なクラウドインフラ (Google Cloud²⁹)、そして既存のエ

インタープライズ顧客基盤は大きな強みです。Google Workspace、各種 Cloud サービス、さらには Google Flights のような外部サービスとの連携³⁶や、スマートグラスのような新しいデバイスとの統合³⁷も、独自の価値を提供する可能性があります。特に、Gemini の持つマルチモーダル能力や長文脈処理能力⁵は、次世代 AI エージェントのトレンドと合致しています。

- **市場の力学:** Google のような巨人の影響力が増す一方で、特定のニーズに応えるニッチなスタートアップや、異なるアプローチをとるプレイヤーにも成長の機会があります³¹。将来的には、異なるベンダーの AI エージェント同士が連携し、より複雑なタスクを実行可能にするための相互運用性（A2A: Agent-to-Agent 連携、MCP: Multi-Agent Collaboration Platform など¹²）が、市場の発展において重要な要素となるでしょう。

Google が Gemini モデルを自社の広範なエコシステム（検索、Workspace、Cloud、Android、将来的にはウェアラブルデバイス等）に深く統合していく戦略⁵は、他の独立系プロバイダーには真似のできない強力な競争優位性を生み出す可能性があります。ユーザーのデジタルライフ全体にわたるコンテキストを活用した、シームレスで統合されたエージェント体験を提供できる可能性があるためです。

一方で、AI エージェントの自律性が高まるにつれて¹、倫理、安全性、規制、ガバナンスに関する議論も活発化しています⁷。技術革新のスピードと、社会的な受容性や安全確保とのバランスをいかに取るかが、業界全体の持続的な発展にとって重要な課題となります。

また、マルチエージェントシステムとオーケストレーションへの注目¹は、将来の AI 活用が、単一の万能エージェントではなく、特定の機能に特化した複数のエージェントが協調するエコシステムへと向かう可能性を示唆しています。これは、エージェント間の連携を可能にする新たなプラットフォームや標準化の必要性をもたらします¹²。

VIII. 結論と戦略的推奨事項

分析結果の総括

本レポートでは、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus という 3 つの AI エージェントを、ビジネス・研究用途および日本語対応の観点から比較分析しました。

- **OpenAI Deep Research** は、ChatGPT プラットフォーム上で提供され、引用付きの詳細なレポート生成能力により、検証可能性が求められる深い調査において明確な強みを示します⁶。しかし、API 連携ができない点⁴と利用回数制限⁹が、自

動化や大規模利用における制約となります。

- **Genspark** スーパーエージェントは、潜在的な価格競争力¹⁴と多様な機能へのアクセス¹⁴を持つ可能性があります。性能、機能詳細、API有無、そして日本語サポート品質に関する情報が不足しており¹³、現状では評価が困難です。
- **Manus** は、エンドツーエンドのタスク自動化という点で次世代の可能性を秘め、市場の期待を集めています²²、情報が極めて限定的でアクセスも困難であり、その実力は未知数です。

いずれのエージェントを選択するにしても、特に日本市場においては、日本語の処理能力（精度、自然さ、文脈理解）を実際の利用シナリオで厳密に検証することが不可欠です。

市場動向と将来展望の要約

AI エージェント市場は、自律的なタスク実行能力¹、マルチモーダル対応²、パーソナライゼーション⁷といった方向に急速に進化しており、企業からの投資も活発です²⁷。**Google**をはじめとする大手IT企業の参入により競争は激化し⁴、技術革新が加速しています。今後は、複数のエージェントが連携するシステムの発展³や、AI倫理・ガバナンス¹¹の重要性が増していくでしょう。

日本のビジネス・研究機関への示唆

これらのAIエージェントは、日本の組織にとって、生産性の大幅な向上¹²、新たな研究開発の推進⁹、そしてイノベーション創出の機会を提供します。しかし同時に、以下の課題にも留意する必要があります。

- **ツール選定:** 自社の特定のニーズや目的に合致する最適なエージェントを見極めること。
- **日本語能力:** 要求されるレベルの日本語処理能力を持つか、徹底的に検証すること。
- **システム連携:** APIの有無や連携の容易さが、既存システムへの統合や自動化の実現可能性を左右します⁴。
- **コスト対効果:** サブスクリプション料金だけでなく、利用制限⁹や潜在的な追加コスト²⁰、導入・運用コスト全体を評価すること。
- **データガバナンス:** 機密性の高いビジネス情報や研究データを扱う際のセキュリティとプライバシー保護策。
- **組織への影響:** AI エージェント導入による業務プロセスの変化や、従業員の役割・スキルへの影響¹を考慮すること。

戦略的推奨事項

AI エージェントの導入を検討する日本のビジネスおよび研究機関に対して、以下の戦略的アプローチを推奨します。

1. **明確なユースケース定義:** まず、AI エージェントを導入することで最大の価値が見込める具体的な業務プロセスや研究タスクを特定します。目的を明確にすることで、必要な機能や性能要件が定まります。
2. **日本語能力の徹底検証:** 候補となる AI エージェントについて、実際の業務や研究に近いシナリオで日本語の処理精度、自然さ、専門用語への対応、文脈理解能力を厳しくテストします。標準化されたベンチマークが存在しないため、パイロットプロジェクト等を通じた実証評価が不可欠です。
3. **連携ニーズの評価:** 想定するユースケースにおいて、API 連携によるシステム統合や自動化がどの程度重要かを評価します。もし深い連携が必須であれば、API を提供していない、あるいは提供状況が不明なツール（現時点での OpenAI Deep Research⁴ など）は選択肢から外れる可能性があります。
4. **段階的な導入アプローチ:** 市場や技術が急速に進化していること、また一部エージェント（Manus、Genspark）については情報が不足していることを踏まえ、まずは重要度の低いタスクや限定的な範囲でのパイロット導入から開始し、性能、使いやすさ、ROI を評価した上で、段階的に展開を進めることを推奨します。
5. **市場動向の継続的監視:** AI エージェント市場は変化が激しいため、Manus の正式リリース情報、Genspark の機能・価格の明確化、OpenAI Deep Research の API 提供の可能性、Google Gemini エージェントの進化⁴ など、最新動向を継続的に注視し、戦略を柔軟に見直す必要があります。
6. **総所有コスト（TCO）の考慮:** 月額料金¹⁴だけでなく、利用クレジットや回数制限による追加コスト⁹、上位プランへの移行の必要性²⁰、システム連携にかかる費用、従業員トレーニングなど、導入・運用に関わる総コストを評価します。
7. **データガバナンス体制の整備:** 特に機密情報や個人情報を含むデータを扱う可能性がある場合は、利用する AI エージェントのデータ処理ポリシーを確認し、自社のセキュリティ基準や関連法規を遵守するためのガバナンス体制を事前に整備します。

これらの推奨事項に基づき、慎重かつ戦略的に AI エージェントの評価・導入を進めることが、その潜在能力を最大限に引き出し、ビジネスや研究における競争優位性を確立するための鍵となります。

引用文献

1. UiPath、レポート「自動化とAIのトレンド：2025年版」を発表、4月12,2025にアクセス、<https://www.uipath.com/ja/newsroom/uipath-automation-and-ai-trends-report-2025>
2. 2025年注目の生成AIトレンド3選を紹介！第1位は？ | クラスメソッド株式会社、4月12,2025にアクセス、<https://classmethod.jp/articles/2025-trend-ai/>
3. AI エージェントの未来：2025年の注目予測とトレンド - Salesforce、4月12,2025にアクセス、<https://www.salesforce.com/jp/news/stories/ai-agents-trends-2025/>
4. OpenDeepResearch をAPIとして利用する - Zenn、4月12,2025にアクセス、<https://zenn.dev/solvio/articles/6a8afe4c5d9b1b>
5. 生成AIとAIエージェントの連携でビジネスの世界は一変する - JBpress、4月12,2025にアクセス、<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/87166>
6. 【実演あり】OpenAIのDeep Researchとは？使い方や料金を解説 - 株式会社SHIFT AI、4月12,2025にアクセス、<https://shift-ai.co.jp/blog/15961/>
7. 2025年AIトレンド予測 今年は何が流行る？ - Nuco、4月12,2025にアクセス、<https://nuco.co.jp/blog/article/iUL-FjZQ>
8. AI エージェントが描く2025年の世界 - 実践事例・知見 | HUMAN∞ TRANSFORMATION | Ridgelinez (リッジラインズ)株式会社 | DX コンサルティング、4月12,2025にアクセス、<https://www.ridgelinez.com/hx/contents/transformation-20250123/>
9. 【ChatGPT】OpenAI Deep Researchとは？使い方、料金体系を解説！ - AI総合研究所、4月12,2025にアクセス、<https://www.ai-souken.com/article/openai-deep-research>
10. ChatGPT・Gemini・Perplexity・Grokの「Deep Research」とは？料金、性能、特徴を徹底比較！（実際の操作画面付き） - AIMarket、4月12,2025にアクセス、https://ai-market.jp/generative-ai-howto/deep_research-review/
11. <2025 AIトレンド通信2月号>2025年の生成AI業界を徹底予想！ | 株式会社SHIFT AIのプレスリリース - PR TIMES、4月12,2025にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000114.000116644.html>
12. Googleが新規格「A2A」発表：MCPを補完するAIエージェント連携、50社超が支持 - クラウドエース、4月12,2025にアクセス、<https://cloud-ace.jp/column/detail488/>
13. AI検索エンジン最前線：Perplexity、Felo、Gensparkを徹底比較！ - Qiita、4月12,2025にアクセス、<https://qiita.com/shioccii/items/9d4d23ad01c0979b5532>
14. Genspark スーパーエージェントってAIが凄すぎた！一発で検索→推論→使える資料が完成？、4月12,2025にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=kMKviTeGL4c>
15. 流行りのAI検索エンジン「Felo」「Perplexity」「Genspark」徹底比較～どれが良い？ - YouTube、4月12,2025にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=U3Yz3yHhsc0>
16. ChatGPT Plus の料金体系と支払い方法をわかりやすく解説！ - AI総合研究所、4

- 月 12, 2025 にアクセス、 <https://www.ai-souken.com/article/chatgpt-plus-pricing-info>
17. Perplexity AI とは？特徴や使い方、他 AI ツールとの違いを比較しながら詳しく解説 - WEEL, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://weel.co.jp/media/innovator/perplexity/>
 18. API 料金 - OpenAI, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://openai.com/ja-JP/api/pricing/>
 19. 【週刊 AI 動向】生成 AI 最前線：2025 年 4 月第 1 週の革新と企業戦略 - Zenn, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://zenn.dev/takuyanagai0213/articles/2878bca0ccc400>
 20. OpenAI の Deep Research とは？機能や使い方、料金を解説【ChatGPT】 - 株式会社アドカル, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://www.adcal-inc.com/column/deep-research/>
 21. OpenAI・ChatGPT の API 料金詳細（GPT-4.5、o3、o1 対応）！各プランコスト比較・支払方法・料金節約 5 手法！ - AI Market, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://ai-market.jp/howto/chatgpt-api-cost/>
 22. 表計算から株価分析まで任せる！Manus AI エージェント徹底解説 - GPT Master, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://chatgpt-enterprise.jp/blog/manus-agent/>
 23. Manus AI レビュー：中国 AI エージェントビルダーはいかにして世界に衝撃を与えたか - FlipHTML5, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://fliphtml5.com/learning-center/ja/manus-ai-review-how-china-ai-agent-builder-shocked-the-world/>
 24. 最先端 AI エージェント「Manus」：全機能、料金体系、ユーザーレビュー、将来予測まとめ - note, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://note.com/unikoukokun/n/n240b5e4da16b>
 25. 注目 AI ニュース 20 選～manus、Dify v1、Llama4、AI フォン、Sarashina2.2 - YouTube, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=bsQoiH6PGWA>
 26. 注目 AI ニュース 18 選～Manus の実力、Agent SDK、Gemini 2.0 flash ネイティブ画像生成、Gemma3、olmOCR、Copilot for Gaming - YouTube, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://m.youtube.com/watch?v=7m8ZGkeFp7Y&pp=0gcJCU8JAYcqIYzv>
 27. 2025 年に 3 社に 1 社が 2,500 万ドル超を AI への投資として計画していると回答、日本企業は割合が最多～BCG 調査, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://www.bcg.com/ja-jp/press/22january2025-ai-optimism-autonomous-agents>
 28. 2025 年に注目すべき 10 の人工知能トレンド - Botpress, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://botpress.com/ja/blog/top-artificial-intelligence-trends>
 29. 2025 年 - エンタープライズ領域における AI エージェント元年に向けて | Google Cloud 公式ブログ, 4 月 12, 2025 にアクセス、
<https://cloud.google.com/blog/ja/products/gcp/2025-new-year-message>
 30. 【AI 総まとめ 2024】驚異的な進化と 2025 年トレンド大予測 - ainow, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://ainow.jp/ai-trend-2024-2025/>

31. AI エージェント市場の覇権争い：MS と OpenAI の戦略転換 - Arpable, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://arpable.com/artificial-intelligence/next-generation-ai-competition/>
32. AI で世界はどう変わるのか..サム・アルトマンが語った予測をまとめた | Business Insider Japan, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://www.businessinsider.jp/article/2502-openai-sam-altman-predictions-how-ai-could-change-the-world/>
33. AI エージェントとは？仕組みから活用例まで完全解説【2025 年最新】 - ユーザックシステム, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://usknet.com/dxgo/contents/dx-technology/what-is-ai-agent/>
34. 「人が AI と共同作業する未来」へ突き進む 2025 年の AI を予測する - Impress Watch - インプレス, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://www.watch.impress.co.jp/docs/series/nishida/1651965.html>
35. Google Cloud が AI エージェント市場に参入！各社の戦略を比較解説 - ARCHETYP Staffing, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://staffing.archetyp.jp/magazine/ai-agent-space/>
36. 最近話題の【AI エージェント】ってなに？ AI エージェント完全ガイド - note, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://note.com/akeyang/n/ne320e0c2b8c3>
37. 早すぎたスマートグラス、AI エージェント時代到来でついに花開くか？ - MIT Tech Review, 4 月 12, 2025 にアクセス、 <https://www.technologyreview.jp/s/355374/whats-next-for-smart-glasses/>